

# 2022 シーズン J1 リーグ レポート



**StatsBomb**  
Data Champions.

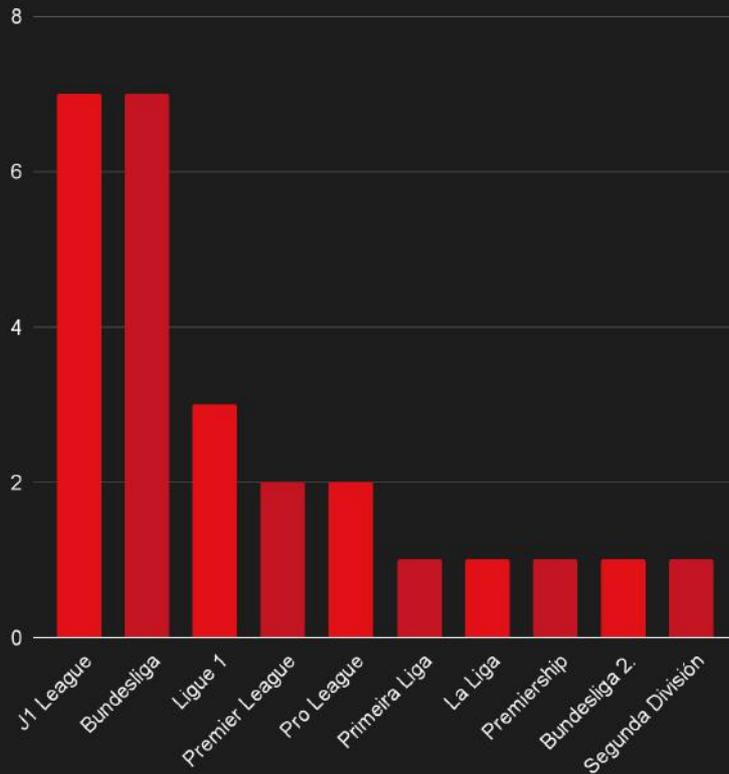
# 日本サッカーの継続的な成長

日本のサッカーは、その人気及び質の高さにおいて、最も急速な成長を見せている地域の一つです。J1リーグはその才能を育て、高いフィジカル及びテクニックを身につけるためのプラットフォームを選手に提供する場所だとグローバルで捉えられており、世界のビッグリーグがスカウトを行なう市場の鍵となっています。

J1リーグは、常にヨーロッパのトップリーグに、安定した人数の選手供給を行ってきました。近年はスコットランドのプレミアシップ、ドイツのブンデスリーガ、さらにイングランドのプレミアリーグにおける三苦薫(ブライトン・アンド・ホーブ・アルビオンFC)のケースなど、日本人選手の活躍が見られるようになりました。

StatsBomb

日本は、2022年ワールドカップの招集リストに異なる10カ国のリーグに所属する選手を招集した



# スカウティングでのデータ価値

サッカーにおけるデータ活用は、J1リーグを始めとする世界中のリーグのスカウティングやリクルートにおいて大きな役割を果たしており、チームや組織は選手一人分の年俸より少ないコストで競争力を高めるための投資を続けています。

選手のリクルートやパフォーマンス分析に関するデータ活用のメリットは、膨大です。

- **広がる選手層**: スカウトする選手数の増加は、予算内で可能な限り最高の選手を獲得できることを意味しています
- **リソースマネージメント**: チームのプレースタイルに合った選手のみに、スカウティングの資源を投資できます
- **パフォーマンスベンチマーキング**: 選手のパフォーマンスをモニターし、所属リーグの他の選手と比較します
- **対戦相手分析**: チームパフォーマンスの傾向や洞察を瞬時に行ない、時間とリソースを節約します

データ利用は、組織が手にするリソースを最大限に活用する最も効率的な方法の一つです。投資に対して、明確で具体的なリターンを提示します

## J1とヨーロッパの比較

J1リーグ及び日本の一般的なサッカーは、ハイレベルなテクニックのみならず、スピードがあり、フィジカル的にも要求度を満たすプレーが行われているとの評判が定着しています。

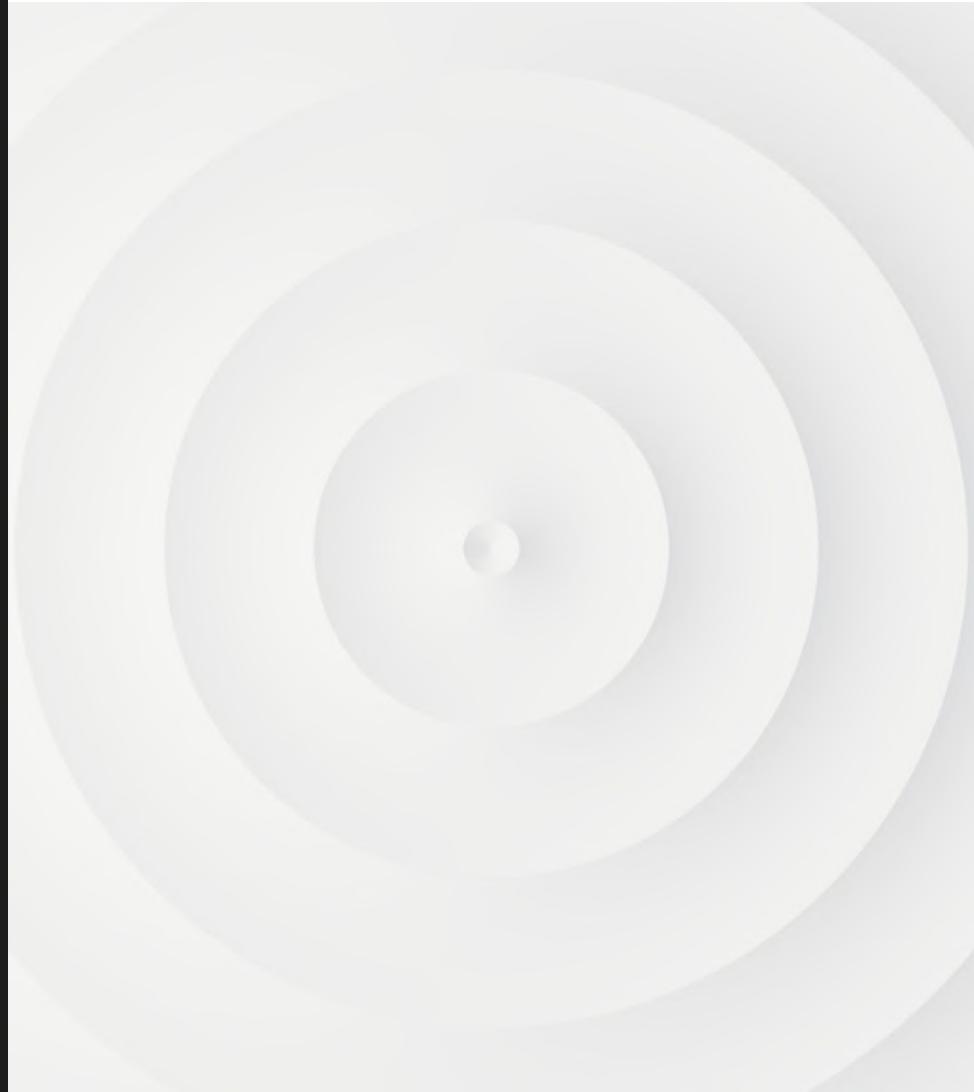
多くの選手がヨーロッパの5大リーグ\*でプレーする状況を踏まえ、J1リーグにおけるいくつかのメトリックを比較し、ヨーロッパの国々とそのスタイルを比べるのは興味深いことです。

- ゲーム中のポゼッションの数値、各チームの攻撃スピード及び相手フィールド内でのプレスについて、J1リーグのランクが高い位置にあることは注目に値します。これはJ1リーグが早いペースでプレーしていることを示します。
- プレス及びシュートの数値が高く、さらにハイプレスの成功率も高いことは、日本のチームが協調的なプレスとポゼッションをうまく組み合わせたチーム作りに重きを置いていることを示しています。

### J1リーグをヨーロッパの5大リーグと比較したら、どうなる？

メトリック	J1リーグ順位 (6リーグ中)	トップリーグ (1位)
ゴール	5位	ブンデスリーガ (最多)
試合中のオンボール	4位	リーグ1 (最長)
ポゼッション	1位	J1リーグ (最多)
GKのパスの長さの平均	5位	リーグ1 (最短)
ドリブル	6位	リーグ1 (最多)
ゴールに向かうペース	3位	ブンデスリーガ (最速)
シュートの距離	5位	プレミアムリーグ (最近距離)
相手フィールドでの プレス	1位	J1リーグ (最多)
ハイプレスショット	2位	リーグ1 (最多)

# Expected Goals (xG).



# StatsBomb xG

Expected Goals (ゴール期待値, xG) は、結果としてゴールにつながるシュートの可能性を計測するために設計されたメトリックです。xG モデルは、類似した特性を持つ数千もの履歴情報に基づき、ゴールの可能性を 0 から 1 の間で推定します。例えば 0.43 の xG 値のシュートは、その時点で 43% の確率でゴールになると予想されます。

チームが xG 値を利用するのは、将来のチームと選手のパフォーマンスを予測するのに最も正確だからです。現在の成績の先を見越し、チーム及び選手の根本的なクオリティ についてより良いアイデアを得ることができます。

StatsBomb の Expected Goals (xG) モデルは、チャンスのクオリティを正確に計測するために、ゴールキーパーのポジション、周囲のディフェンダーのポジション、ボールへのプレス、ボールを蹴った瞬間の高さなど他のどのプロバイダーよりも多くの背景にある情報、より質の高いデータを使っています。

独立した分析と弊社独自のリサーチにより、他の競合のモデルと比較して、我々の xG はより正確で予測率が高いことが示されています。

[弊社の Expected Goals モデルについての詳細は、ここをクリック >>](#)

StatsBomb

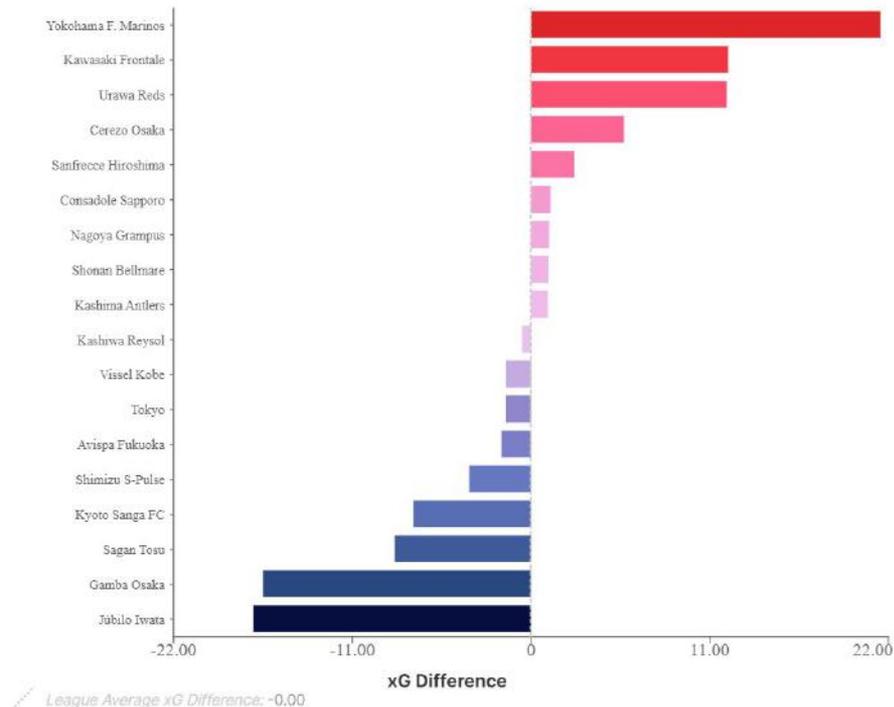


# Expected Goals (xG)

2022年 J1 リーグチャンピオンの横浜F. マリノスは、ゴール期待値差（各クラブが生み出したxGと相手クラブが生み出したxG を引いたもの）に応じて、タイトルを制覇するのに値したことになります。チームのxG 差は+21.5 とリーグの中で群を抜いてトップでした。

このランキングは昨シーズンの、各クラブが生み出したxGと相手クラブが生み出したxGの差を示したものです。多くのチームがゼロ域に近いことがわかります。

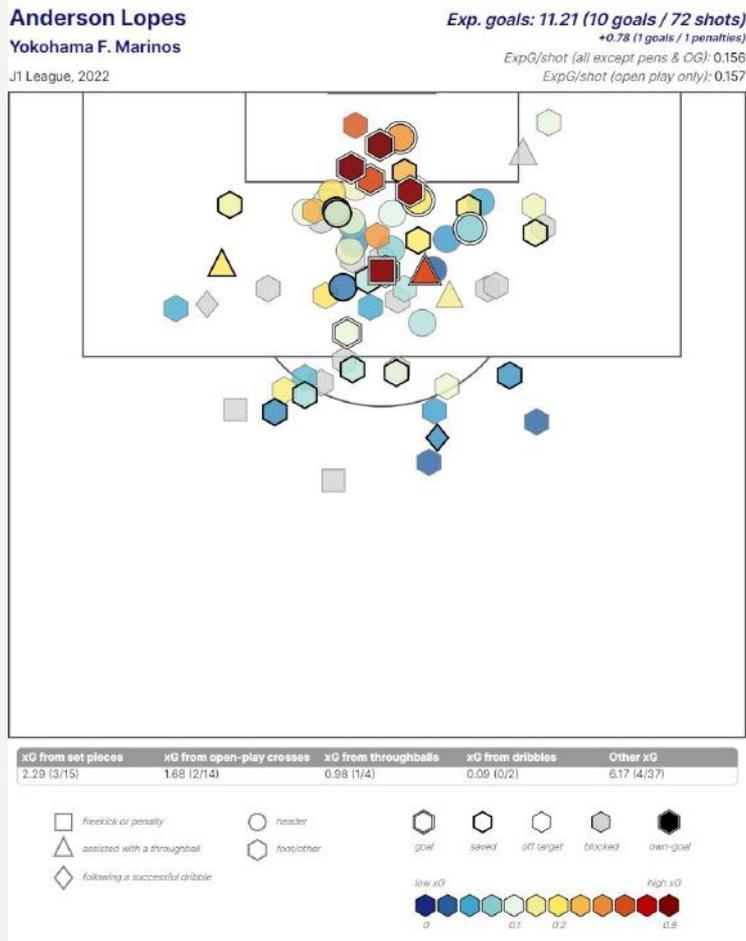
浦和レッズは、もう少し順位をあげることができたように感じられます。チームの得失点差は+9、ゴール期待値は+12.1 でしたが、順位表の中央の位置で終えることになりました。



# Expected Goals (xG)

チアゴ・サンタナ(清水エスパルス)は、2022年 J1リーグで 14ゴール (PKを除くと13ゴール)を決めて得点王になりました。彼はxG (ゴール期待値)7.97からオープンプレーで3ゴールを決めたのです。つまり期待された 60%を上回る結果を出したことになります。

2022 年に最も xG (ゴール期待値)が高かった選手は、横浜マリノスの アンデルソン・ロペスでした。ロペスのxGは 11.21 でしたが、ゴール数は 10 ゴール(PKを含まず)のみでした。



# Expected Goals (xG)

**Makoto Mitsuta**  
Sanfrece Hiroshima

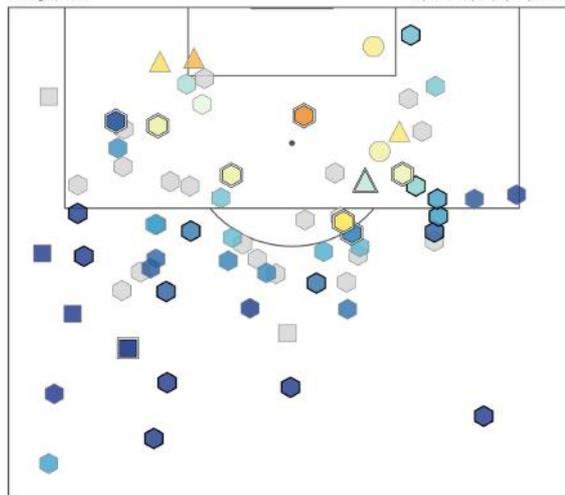
**Exp. goals: 4.46 (9 goals / 72 shots)**

+0.00 (0 goals / 0 penalties)

ExpG/shot (all except pens & OG): 0.062

ExpG/shot (open play only): 0.070

J1 League, 2022



xG from set pieces	xG from open-play crosses	xG from throughballs	xG from dribbles	Other xG
0.25 (1/2)	0.23 (2/2)	0.02 (1/4)	0.00 (0/3)	3.96 (3/5)



**Anderson Lopes**  
Yokohama F. Marinos

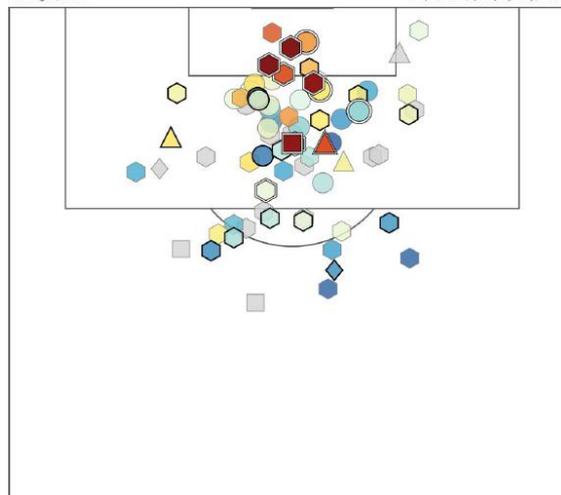
**Exp. goals: 11.21 (10 goals / 72 shots)**

+0.78 (1 goal / 1 penalty)

ExpG/shot (all except pens & OG): 0.156

ExpG/shot (open play only): 0.157

J1 League, 2022



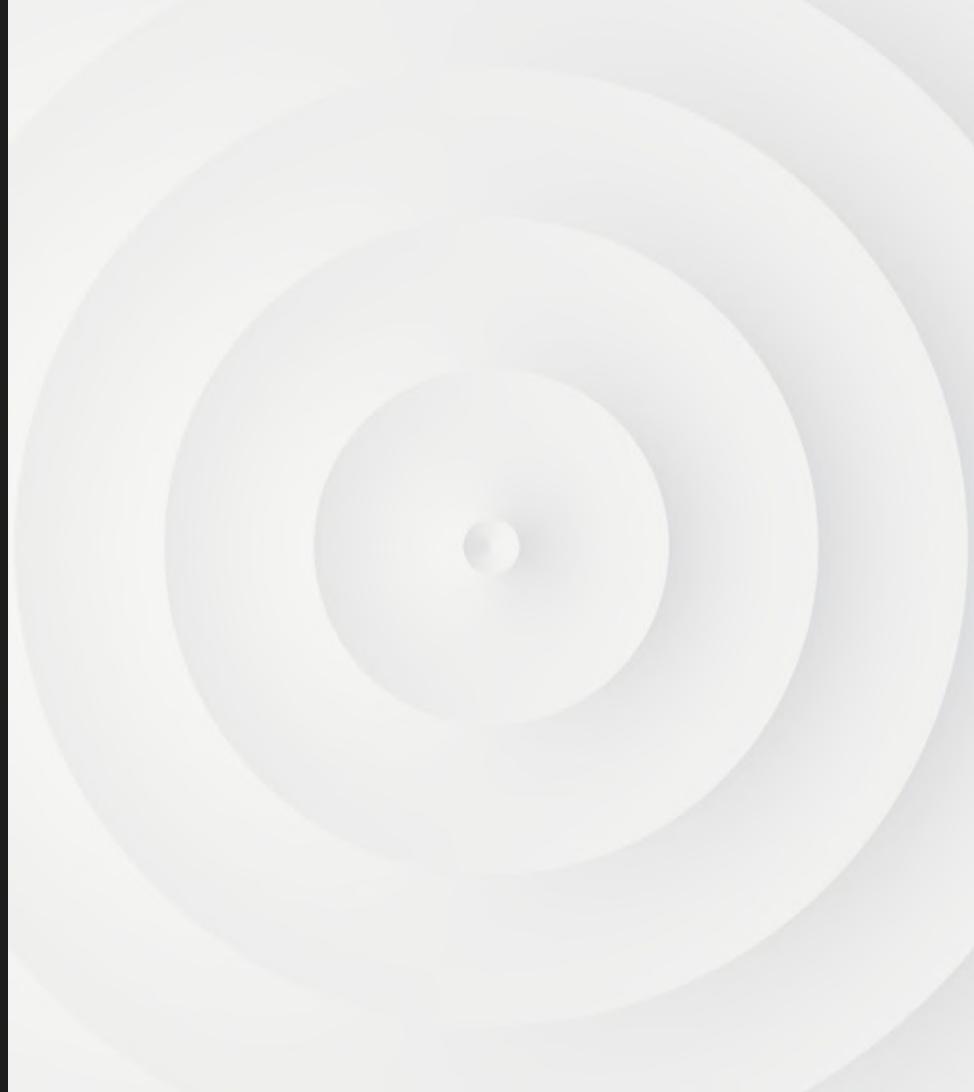
xG from set pieces	xG from open-play crosses	xG from throughballs	xG from dribbles	Other xG
2.23 (3/5)	1.68 (1/4)	0.08 (1/4)	0.09 (0/2)	6.17 (4/7)



ゴール期待値の力を更に説明するために、2022年に72本のシュートと放った2人の選手を比較しましょう。満田のゴール期待値(4.46)に比べ、ロペスの数値が倍以上あるのは、彼がより良いポジショニングからシュートを打ったからです。

プレス.

**StatsBomb**  
Data Champions.

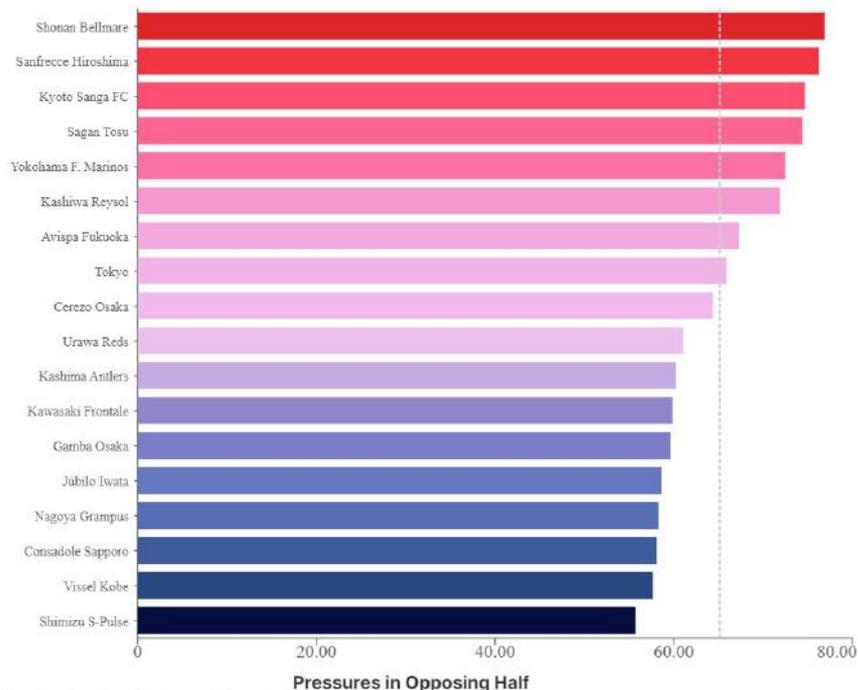


# プレス

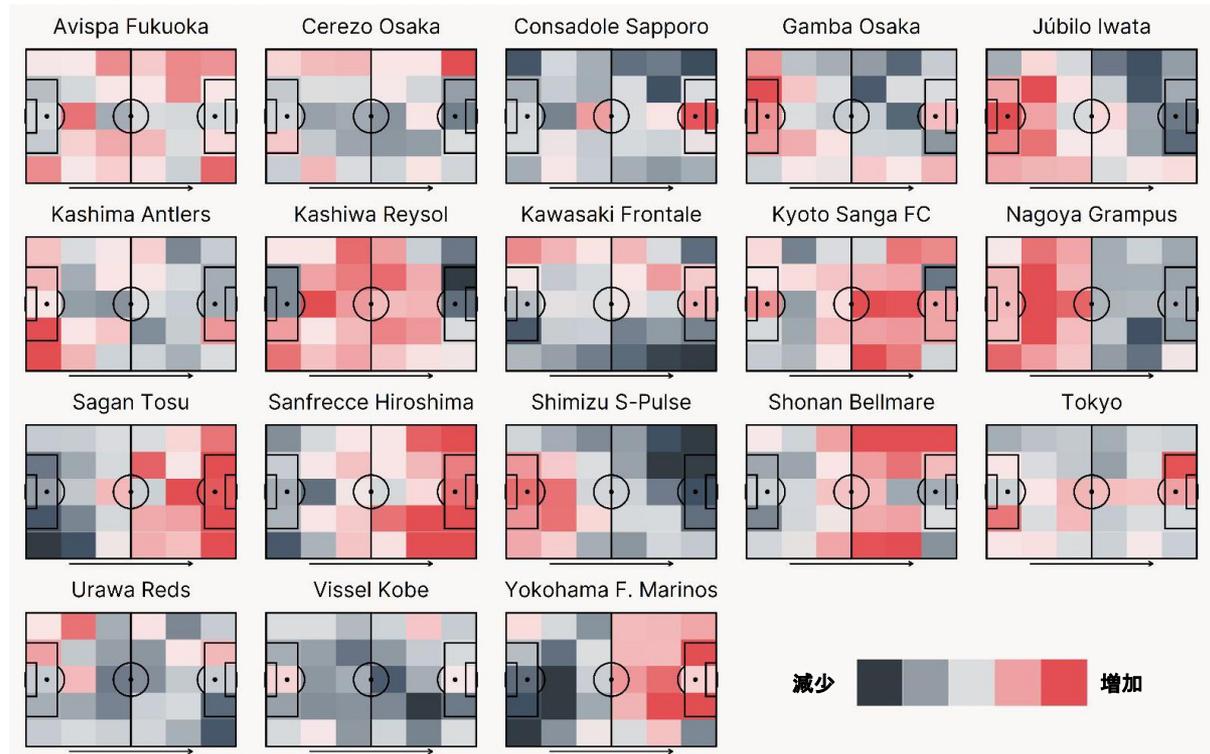
StatsBomb は、イベントレベルで正確なプレスを集計する唯一のプロバイダーであり、それにより選手やチームがどのようなプレスをかけたか、プレス下でどのようなアクションを起こしているのか分析できます。

右側のグラフは、それぞれのチームが相手陣内でプレスをかけ九試合あたりの平均量を示しています。

高いプレッシングアプローチを行っているチームとして、湘南ベルマーレ、横浜Fマリノス、サガン鳥栖があげられ、彼らがトップを占めています。一方、プレスアプローチがより保守的な清水エスパルス、名古屋グランパスなどのチームは下位に位置しています。



## リーグ平均と比較したディフェンス面のアクティビティ

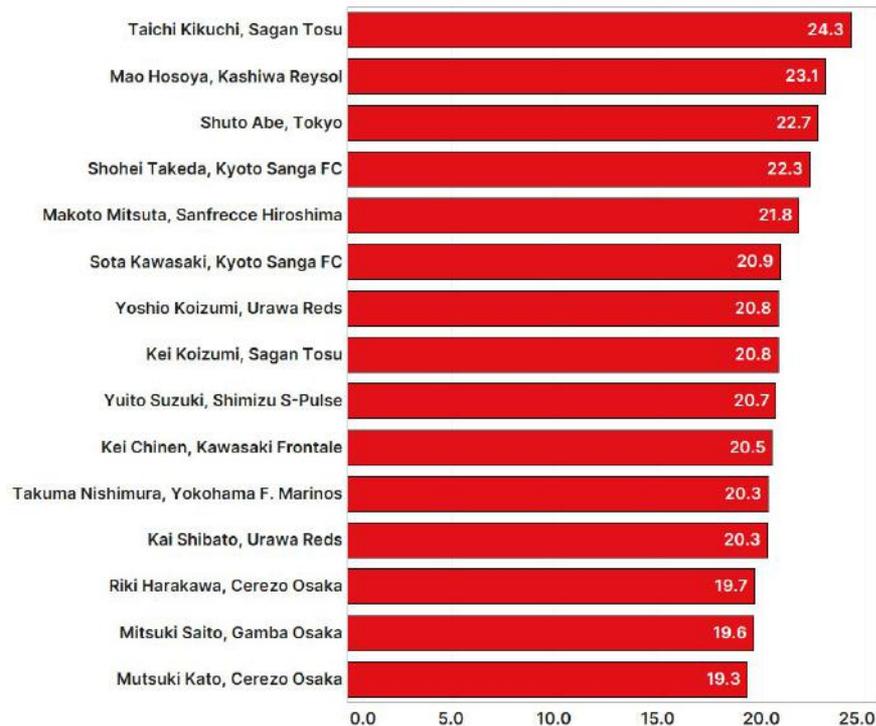


# プレス

プレスをかけることは、選手レベルのアクションにおける情報としても非常に有効であることがわかっています。どの選手がプレスにおいて積極的であるのか、ピッチのどのあたりで選手がプレスをかけるのかを特定することは、パフォーマンス及びリクルート分析において、そして、プレスがかけられた中での選手の行なった行動を見る上で、重要な情報になりえます。

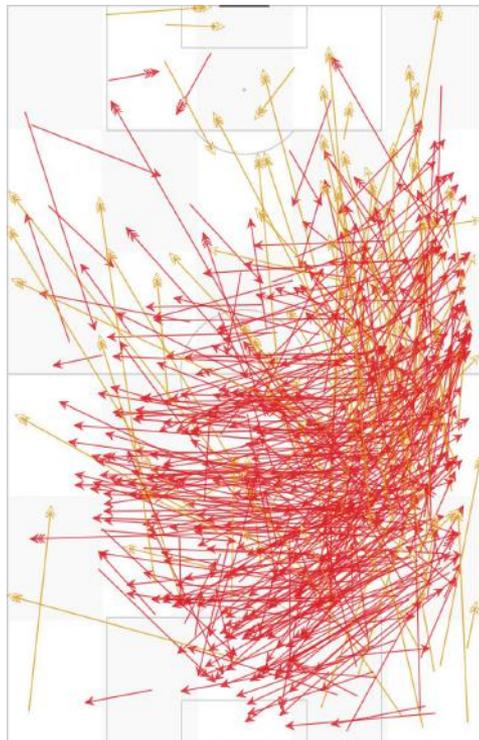
右のチャートは、2022年 J1 リーグシーズンで、90分間におけるプレスアクションのトップ選手15人を示しています。菊池泰智(サガン鳥栖)はポゼッション率の高いチーム(65.5%)でプレーしていたにもかかわらず、90分間でのプレスアクションの平均は4.3 でした。

原川力(セレッソ大阪)はプレスにおいては3位ですが、彼のカウンタープレス率(ターンオーバーから5秒以内に行われるプレス)はずっと高く、彼のプレスのほとんどがターンオーバーの直後に行われていました。彼はカウンタープレスのランキング6位でした。

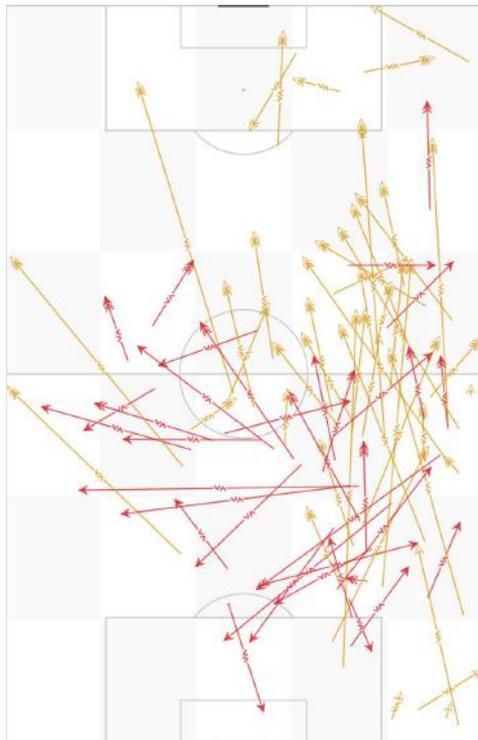


# プレス

プレスを受けない状況下のパス - 完遂84.5%



プレスを受けた状況下のパス - 完遂率 44.0%



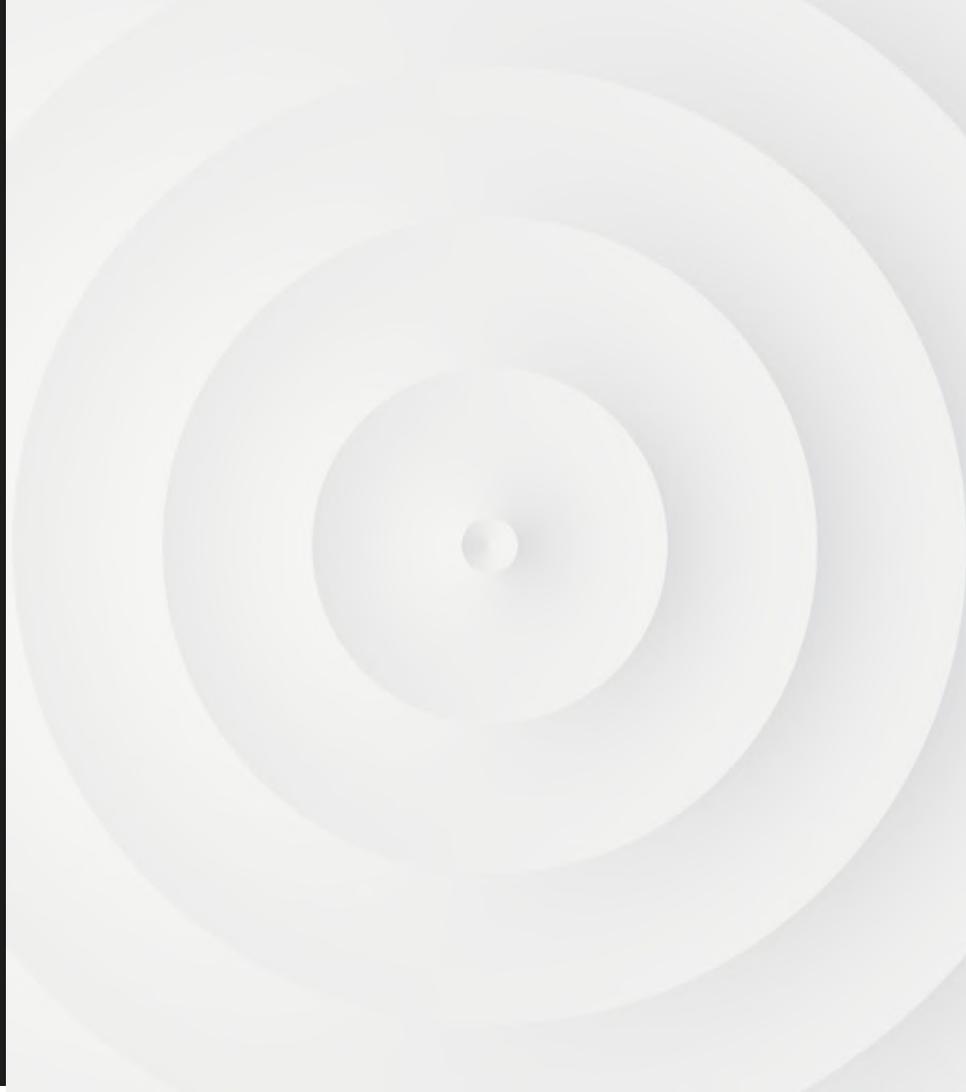
京都サンガのプレ-の方向

対戦相手からプレスを受けた選手がどのようなパフォーマンスをするのか調べるために、プレスのデータを利用することができます。

京都サンガのアピアタウィア久は、2022年にプレスをかけられた中でプレーで劣った選手の一人でした。パスの完遂度は、プレスを受けないときには84.5%でした。しかしプレスを受けると44%まで落ちました。

ラインブレイキング  
パス。

**StatsBomb**  
Data Champions.



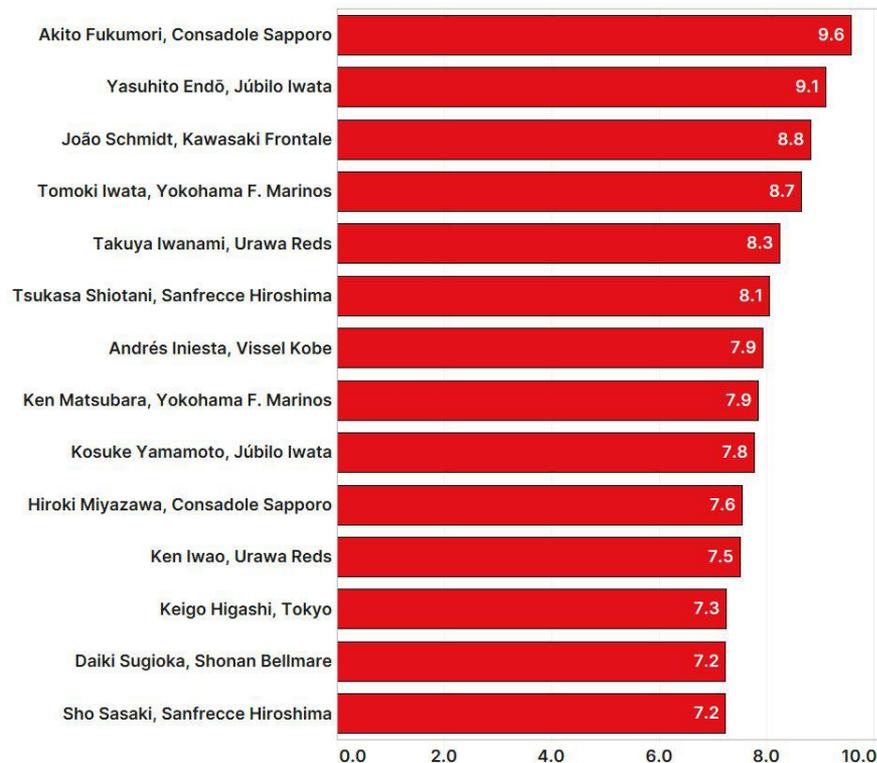
# ラインブレイキングパス

攻撃のプレーにおいて、アナリストは3種類の選手に関心を示す傾向があります: ゴールを決められる選手、得点機会を作り出す選手、そしてゴールに向かってボールを前に進める選手です。

ラインブレイキングパスは、この最後にあげたタイプの選手を図るメトリックです。ビデオアナリストがボールを前に進める選手を評価する計測法が長い間、使われてきましたが、信頼おける値に置き換えることができませんでした——。今までは。

ラインブレイキングパスは、少なくともゴールまで90%以上、ボールを近づけ、二人のディフェンダーと非常に近くで交差する、またはディフェンダーのラインの後ろで終えます。

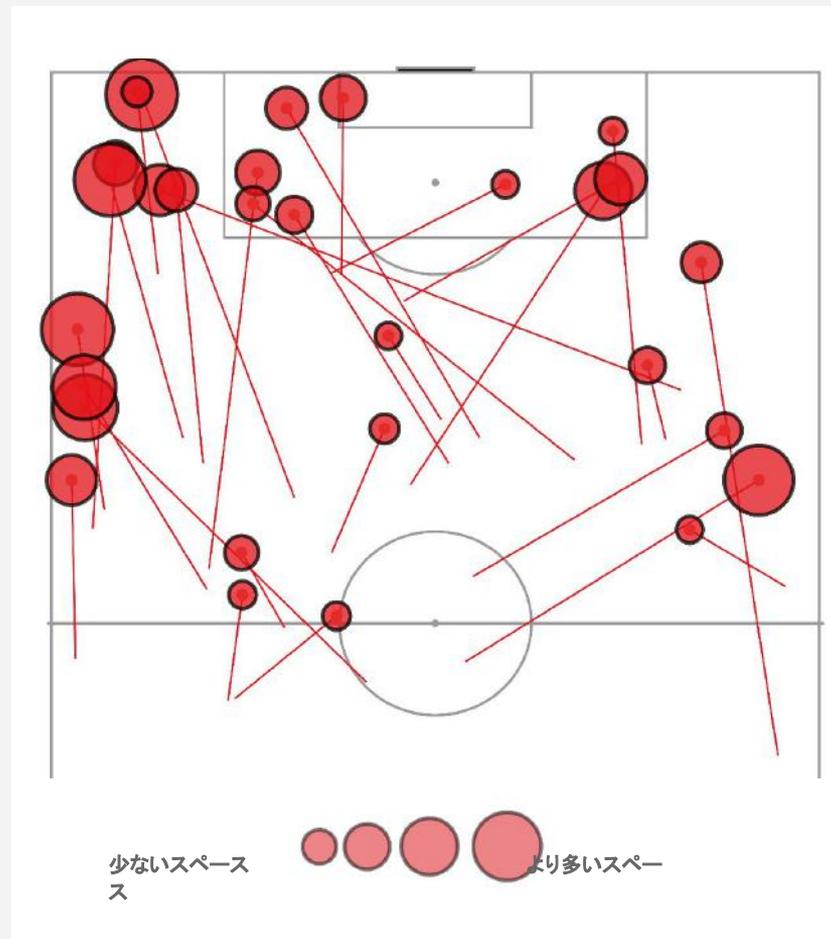
こちらから、2022年 J1 リーグで、最も頻繁にブレイキングパスを出した選手の一覧をご覧ください。



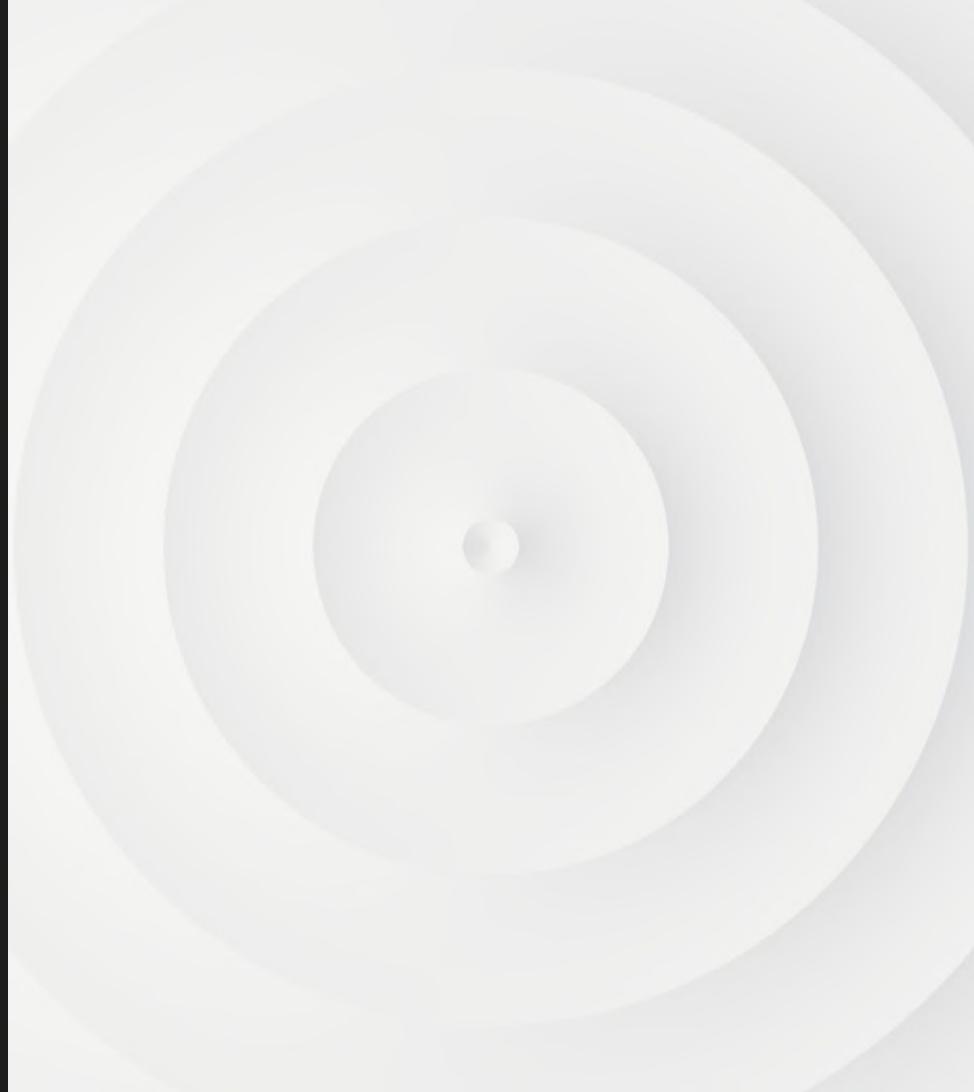
# ラインブレイキングパス

また、ラインブレイキングパスをもっと多くの文脈と組み合わせることも可能です。パスの受け手がボールをもらったときのスペースの広さを示す図があります。この資料からパスを出してラインを割ることができる選手を特定し、更にピッチ上のスペースを活かすこのできる選手を見つけられるのです。

アンドレス・イニエスタはこの好例です。右の図では、彼のラインブレイキングパスが、対戦相手のフィールド内で終わったことを見てとれます。また彼のパスを受けた選手は、少なくとも5メートルのスペースがありました。ノードのサイズは、受け手がいたスペースの広さに比例しています。



# ドリブル 及び ボール運び

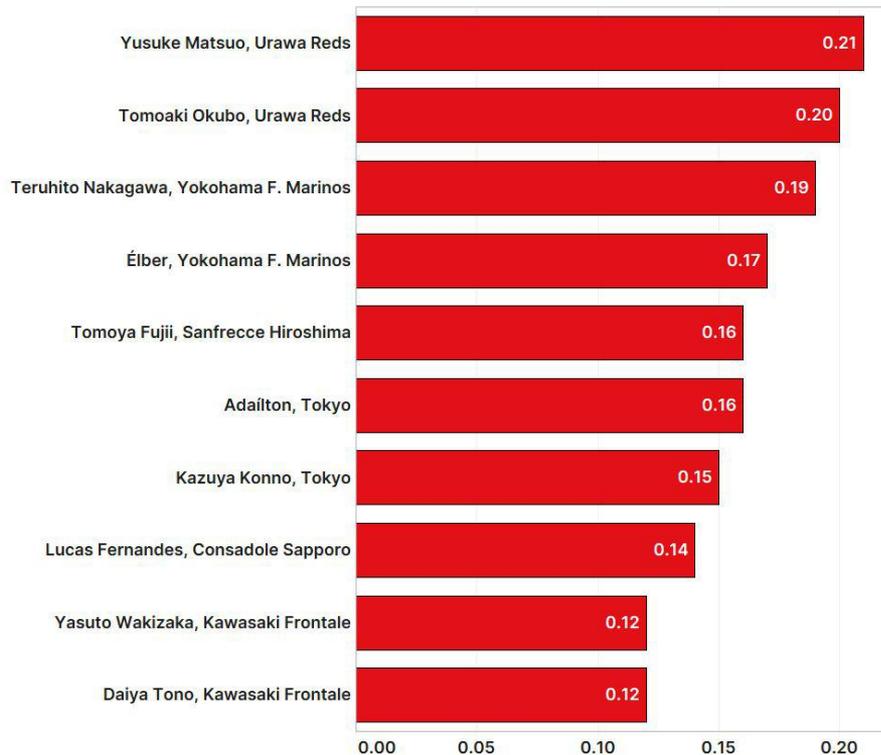


# ドリブル 及び ボール運び

2021年、StatsBomb は、OBVメトリックを導入しました。OBVとは、プラスあるいはマイナスのインパクトに基づき、チームの得失点の公算について評価するモデルです。

かつてアナリストは、選手のドリブルスキルを評価するのに、選手が試みたドリブルの成功数をカウントしていました。しかし現在、私たちはチームポゼッションにおけるゴールの公算のインパクトに基づき、その価値を割り当てることで、選手のボール運びの評価をより正確に行なっています。

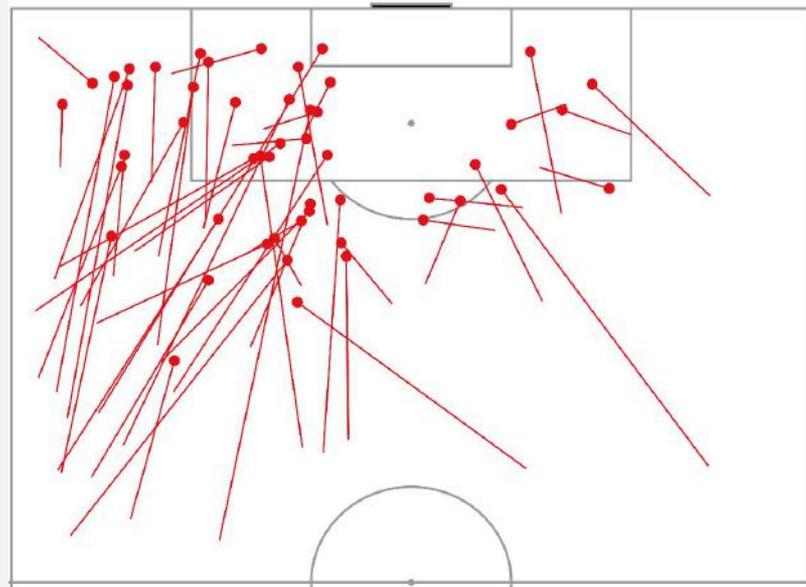
こちらから、2022年 J1 リーグシーズンにおいてドリブルとそのボール運びによって最も高い価値を加えた選手の一覧をご覧いただけます。



# ドリブル 及び ボール運び

松尾佑介は、2022年 J1リーグにおいて他のどの選手よりも、そのドリブルとボール運びに付加価値を与えました。

右の図は、OBVIによって測定された松尾の最も効果的な50回のボール運びを示しています。松尾が敵陣で長い距離にわたってボールを前に運ぶ能力があることがはっきり示され、彼が深く敵陣に切れ込んだり、ワイドのポジションからペナルティーエリア内に入り込んで攻めているのがわかります。



弊社の顧客ポートフォリオからご覧頂けるように私たちは世界中のチーム、協会、アナリストと協力しています



StatsBomb

150+

チーム及びスポーツ組織数

30+

世界中の国々

3,500+

弊社データベースのチーム数

70,000+

弊社データベースの選手数

弊社は、御社の  
データジャーニー出  
発の手助けを  
致します。

[sales@statsbomb.com](mailto:sales@statsbomb.com)

**StatsBomb**  
Data Champions.

